

家庭学習と授業の相互で目指す 学習を自己調整する力の育成

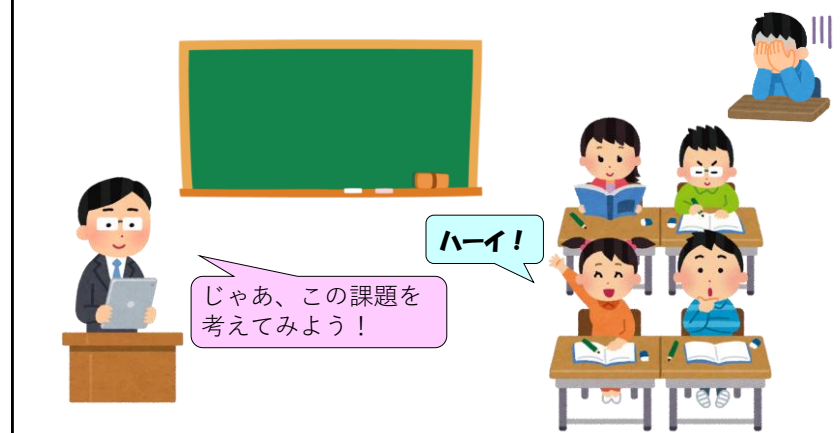
～認知的方略の汎用的な活用を通して～

- ①研究主題と昨年度の実践について
- ②実践を始める前に
- ③家庭学習での実践
- ④授業での実践
- ⑤成果と課題



京都市総合教育センター 研究課研究員
久保田 守

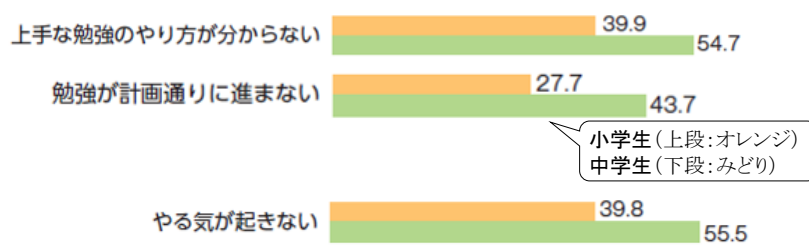
①研究主題と昨年度の実践について



①研究主題と昨年度の実践について

Q あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

図8-1 学習上の悩み(学校段階別) * 値=%



*ベネッセ教育総合研究所 小中学生の学びに関する実態調査(報告書)2014 速報版

学習方略



自らの学習を効果的にするために学習者がとる方法

補助資料①

動機づけ



目標達成のために行動を起こし持続するための内的な力 (学習活動全体を下支えするもの)

メタ認知



自分自身の学習状況の客観的な把握

* 学習状況とは
・ 学習の進み具合や
・ 実行している学習方略の有効性
・ 自身の学習へのモチベーションなどのこと

* 伊藤崇達 「自ら学ぶ力」を育てる方略 -自己調整学習の観点から- 2008年 7月 より

<主体的に学習を進めていくために>

学習方略

を獲得する

メタ認知

を働かせる

動機づけ

の高まり

学習の成果を実感

自身の学習状況を把握し、学習の見通しを立て、適切な学習方略を選択する

次の学習へ!

①研究主題と昨年度の実践について

学習方略

を獲得することを支援

指導者やクラスメイトと学習方略を共有




7

①研究主題と昨年度の実践について

メタ認知

を働かせることを支援

セルフマネジメントシート (SMS) に学習情報を蓄積し、分析

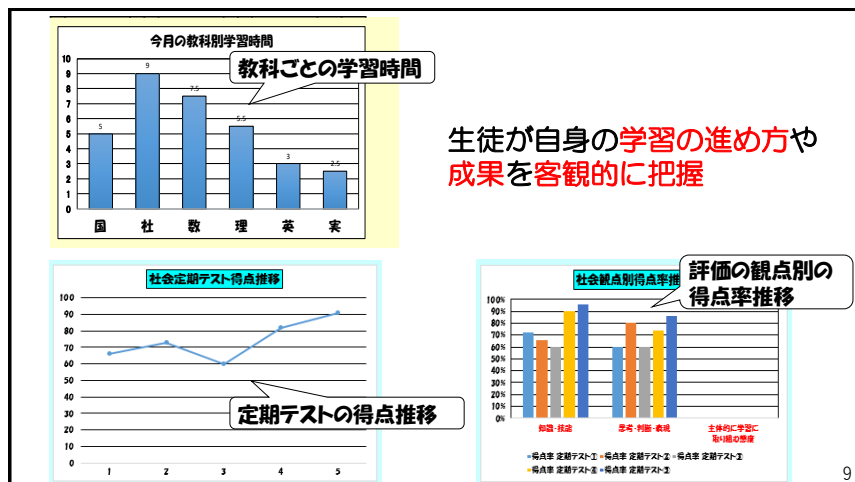
9月 今月の目標: 定期テストに向けて、平日1日2時間以上は勉強をする!

月	火		水		木		金		土		日		目標まで			
	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実				
主科													通算総時数	15	7	
国													国	2	2	
社													社	2	4	
理													理	3	1	
英													英	2	1	
実													実	3	1	
実													実	3	1	
実													実	1	1	
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	目標まで		
主科														通算総時数	20	15
国														国	4	2
社														社	2	4
理														理	5	0
英														英	3	2
実														実	2	2
実														実	3	1
実														実	3	1
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	目標まで		
主科														通算総時数	10	9
国														国	1	1
社														社	4	4
理														理	3	3
英														英	1	1
実														実	2	2
実														実	1	1
実														実	2	0
実														実	1	1
実														実	2	0

学習した内容、方略

学習する時間(予定)
学習した時間(実行)

8



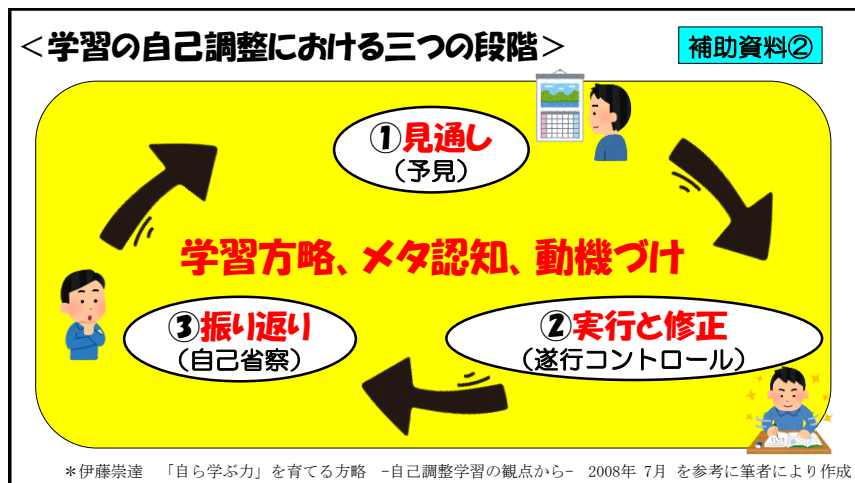
生徒の自己調整を支援し、**動機づけ** を高めるために

SMSの指導者との共有（指導者によるモニタリングと学習のアドバイス）

教師からのアドバイス

継続して細かい学習計画の設定と実施が続けられていますね。great!
今週分もテスト最終日までの予定をしっかりと取り組んでいきましょう。

フィードバック
継続して細かい学習計画の設定と実施が続けられていますね。great!
今週分もテスト最終日までの予定をしっかりと取り組んでいきましょう。



①研究主題と昨年度の実践について

<学習を自己調整する力とは>

児童・生徒が、自らの学習過程を客観的に捉え、うまくいかなかったところはどこか、どのようにすれば次には改善できるのかを振り返り、自らの学びをコントロールする力を指すものである。
(一部、筆者により編集)

*中谷素之 「自己調整力とは何か」 月刊教職研修 教育開発研究所 2019 6月号 P88

しかし、**無自覚!?**
ではないだろうか・・・

◇ **生徒の学習の質の向上** (自覚的に学習を自己調整し、その経験を次の学習に生かす)

◇ **自己調整する力の汎用的な発揮** (生活の様々な場面での自己調整する力の発揮)

生徒の**自己調整する力**を育成

【研究仮説】

- 生徒が学習方略、メタ認知、動機づけの三つの要素と自己調整における三つの段階を**自覚**する
 - ・生徒が**家庭学習**や**各教科等の授業**の場面で学習方略を**自己選択**する
 - ・生徒が自己選択した学習方略を**振り返る(理由と効果)**
- 生徒が蓄積した学習履歴や獲得した学習方略を指導者と**共有**する

学習方略(認知的方略)の教示 (7月中旬)

②実践を始める前に

補助資料①

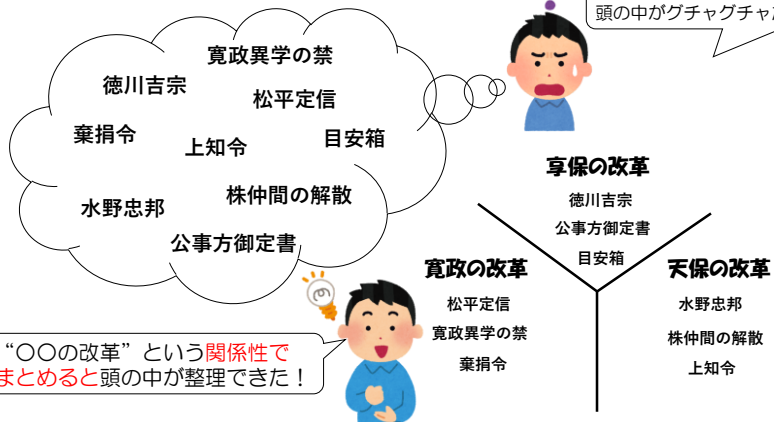
認知的方略

自分自身の記憶や思考など認知的なプロセスを調整することで効果的な学習を促す学習方略

- A 援助要請方略 (人と協力する)
- B リハーサル・記憶方略 (繰り返す)
- C リソース活用方略 (図や表を活用)
- D 体制化方略 (分類, まとまりをつくる)
- E 意味理解方略 (解き方や意味理解)
- F 関連づけ方略 (既習内容と関連付け)

D 体制化方略 (分類, まとまりをつくる)

たくさんあり過ぎて、頭の中がグチャグチャだ！



補助資料③、④

セルフマネジメントシート(SMS)の説明と指導者との共有

理科	音楽	美術	保健	家庭	英語	4	5
主な予定	定期テスト1	1日目 社会・英語	定期テスト1	2日目 国語・数学・理科	60	60	
国語	漢字プリント	30	漢字プリント	B			
社会	計算練習	40	計算練習, 応用問題	100	E		
数学	理科ノートの見直し	60	ノートの見直し, 問題練習	120	B		
英語							
学習する時間							
11							
12							

学習した時間
学習した内容
学習で活用した方略
左側が予定
右側が実行
実行が計画と変わってもOK!

SMSに入力する学習情報

- ・学習した時間
- ・学習内容
- ・認知的方略
- ・テストの点数

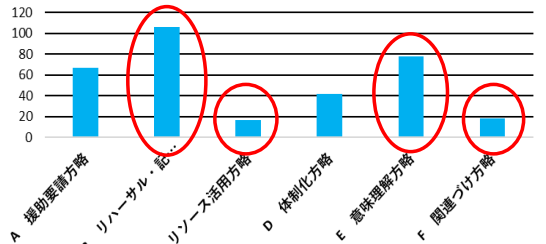
方略という視点からの分析

家庭学習の質の向上

これまでの学習の“振り返り” (9月中旬～)

③家庭学習での実践

実践の初期(7月)段階における
家庭学習での学習方略の活用傾向



* n=133 回答数=328 生徒一人あたり三つまで選択可

昨年度に比べて、

学習方略についての
分析が増えた

生徒たちは、

リハーサル・記憶方略
を主に活用している

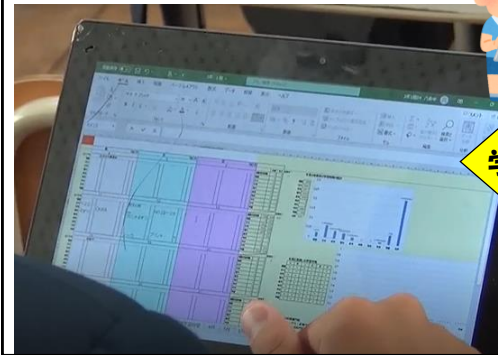
多様な方略を獲得し
選択していくことが必要

17

“見通し” → “実行と修正” (10月～11月)

③家庭学習での実践

生徒は日々の学習の計画や学習した記録を
SMSに入力し、学習履歴として蓄積していく



時間配分のバランスがいい
ですね。
英語は予定よりもかなり少
なめなので、次週で調整し
ましょう！

学習のアドバイス

科目	時間
英語	1.5
数学	1.5
理科	2.5
音楽	3
美術	0.5
保健	2
体育	1.5
英語	5.5

18

再び、“振り返り”の段階へ (11月下旬)

③家庭学習での実践

分析 ◎“比較”“推移”“関連付け”により、学習の進め方の特徴を分析する！
改善 ◎今後の学習の進め方を、特に学習方法（学習方略）に着目して改善しよう！

社会

他教科 過去の自分 テスト結果

学習時間

学習時間は他の教科よりも多くて、範囲も広がったからいつもより多く勉強した。結果は前とほとんど変わってなかった。

学習内容

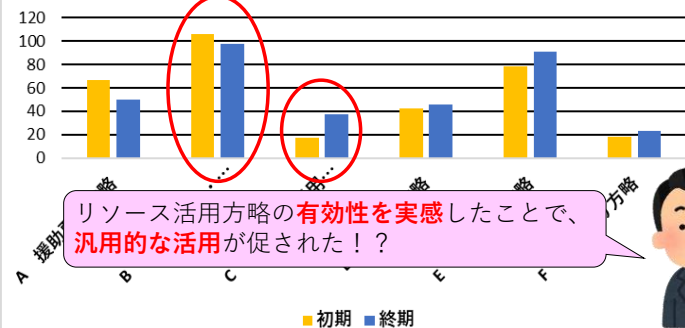
プリントを見返したり教科書を見て覚えたが、リハーサル・記憶方略を使ってプリントの語句を覚えたりしていたが、**語句を覚えるだけでは限界を感じたので国同士の関係とか関連付け方略を使えば良かった**

学習方法 (学習方略)

リハーサル記憶方略を使ってプリントの語句を覚えたりしていたが語句を覚えるだけでは限界を感じたので国同士の関係とか関連付け方略を使えば良かった

19

家庭学習での学習方略の活用傾向を比較
初期(7月)と終期(11月)



リソース活用方略の**有効性を実感**したことで、**汎用的な活用**が促された！？

* 初期 n=133 回答数=328 終期 n=117 回答数=345 共に生徒一人あたり三つまで選択可

20

④授業での実践

Q.海上にいる船から、海岸線にある目印を見わたす角度をもとにして、船がどこにいるかを見つける方法を考えましょう。

どの認知的方略を使えば、解けるかな？

学習の
見通し → 実行修正 → 振り返り

上の地図で、船から見わたす角が 30° になるところに、海峡ゆめタワーと海響館がありました。また、船から見わたす角が 45° になるところに、関門海峡ミュージアムと門司港レトロ展望室がありました。

☆解決するための手段を考えよう☆

*提示した学習課題は実践で研究協力員が設定したものと

④授業での実践

数学 <二次方程式> (7月中旬)

いまから30分間やってもらいますが、**問題を解くための方略は自分たちで決めてください。**
例えば、何も見ずに自力でやろうとか、教科書、ファイル、タブレットとかを使って調べてやろうでもいいし、一人では自信がないので誰かとやろうとか、図やグラフに置き換えて考えてみようとか、どんな方法でも良いです。
どういう方略が一番、自分の理解につながるか、課題の解決につながるかを考えて取り組んでください。

① 連続する3つの正の整数を
② $a^2 + \dots = \dots$
③ $a^2 + b^2 = c^2$
④ $0 < a$

④授業での実践

タブレットで語句の意味を検索する生徒

グラフや表を活用して考える生徒

既習内容と関連付けて考える生徒

一人で考える生徒

友だちと協力して考える生徒

⑤補助資料

<二次関数> (9月)

(記号)	(方略名)
E	意味理解方略

(方略を選択した理由)
1つ1つの文章の意味や、聞かれていることを確認して、**理解しながら解いていくことで整理できる**ので、やりやすかったから。

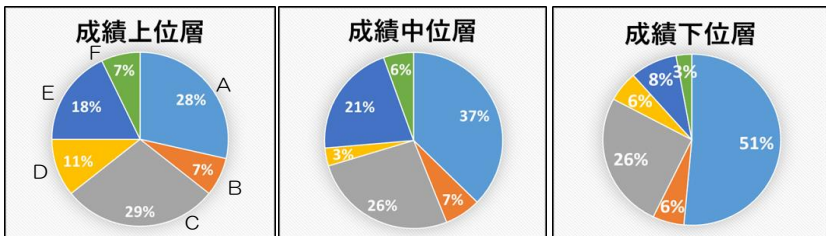
(選んだ方略の(効果))
自己調整したこれまでの経験や有効性の実感から、**見通しを立てた上で、方略を選択している**

自己選択した認知的方略の**有効性を実感**

自己調整を自覚

今後、異なる学習課題に対しても、**自己調整する力を汎用的に発揮**

成績層別 認知的方略の活用傾向 数学 <二次関数>



中間テスト85点以上の生徒を成績上位層とした (14人)

中間テスト50点以上の生徒を成績中位層とした (50人)

中間テスト49点以下の生徒を成績下位層とした (27人)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| A 援助要請方略 (人と協力する) | B リハーサル・記憶方略 (繰り返す) |
| C リソース活用方略 (図や表を活用) | D 体制化方略 (分類・まとまりをつくる) |
| E 意味理解方略 (解き方や意味理解) | F 関連づけ方略 (既習内容と関連付け) |

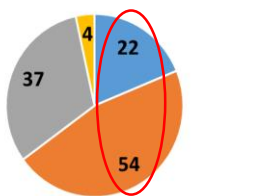
25



<成果> “学習の質の高まり”と“自己調整する力の汎用的な発揮”

⑤成果と課題

適切な学習方略を選択することで学習の成果をあげることができている



- できている
- どちらかといえはできている
- あまりできていない
- できていない

* n=117 値=人数

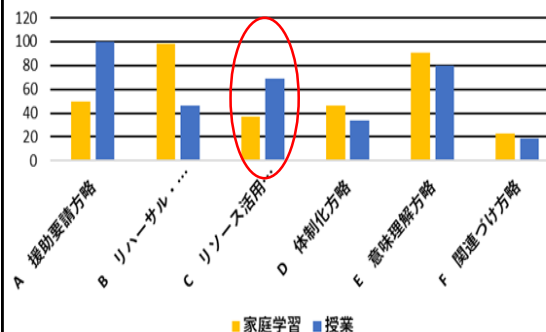
いろいろな学習方法 (方略) を使えるようになって、**学んだことが深まった気がする。**
テストでも良い点数が取れた。



生徒からの聞き取りより

27

実践終期(11月)における家庭学習と授業との方略の活用傾向の比較



* n=117 家庭学習：回答数=345 授業：回答数=348 共に生徒一人あたり三つまで選択可

・授業の場面で、リソース活用方略を活用する機会が多かった

自己調整の経験

方略の有効性

・家庭学習の場面へと汎用的に方略を活用できるようになった

28

<課題> “学習の質の高まり”と“自己調整する力の汎用的な発揮”



家でも授業でも自分はあまり勉強の仕方
(認知的方略)を選ばなかった。
とりあえず問題を読んで解こうとした。

指導者による支援のもと、自己調整の経験を積み上げていくことが必要

<課題> “学習の質の高まり”と“自己調整する力の汎用的な発揮”

(自己調整のサイクルを)勉強ではいままで意識したことはなかった。でも、野球の練習をする時に言われてみればそういうことはある。



自分が勉強のどこが得意で苦手なのかを客観的に見て、苦手なこともやっていく必要がある。そうすることで同じ失敗を繰り返すことがなくなると思います。

現状では、自己調整する力を理解し、汎用的に発揮するためのスタートラインに立っている

無自覚であった自己調整を自覚し、自己調整のサイクルを理解できた

家庭学習と授業の相互で目指す 学習を自己調整する力の育成

～認知的方略の汎用的な活用を通して～



☆アンケート用QRコード



京都市総合教育センター 研究課 研究員

久保田 守

ご清聴、ありがとうございました!